

最優秀賞

鹿児島・ラ・サール高等学校 三年

徳森 大悟

そばにいてみんなを優しくしたいから半濁点に僕はなりたいたい

優秀賞

石川・北陸学院高等学校 二年

中川 莉果子

改札でいつも笑顔の駅員さん今日は手を引きホームに向かう

千葉県立安房高等学校 一年

松井 彩徒

賢しげに人のあり方説く人の隣にそっと咲くレンゲ草

佳作

埼玉県立浦和第一女子高等学校 二年

林 優授子

会ふたびにちさくなりゆく祖母の背に負はれし日あり母もわたしも

大阪府立堺東高等学校 二年

赤松 彩葉

暑い中扇風機もなく黙々とあげてくれていた祖母の天ぷら

群馬県立太田高等学校 二年

川島 颯太

あててみて手持ち花火で「すき」と書くビビッてすぐに「やき」を付け足す

埼玉県立深谷商業高等学校 二年

大川 柊斗

道ゆく人皆片手にスマートフォンスマホの鎖に飼われてる

新潟・東京学館新潟高等学校 三年

栗田 岳

祖父ちゃんが漁師の経験語る時右手の団扇は舵を切ってる

入選

千葉県立安房高等学校 一年

影山 仁香

ふわふわとたんぽぽ綿毛とんでいく「離れていても家族だからね」

埼玉県立川越西高等学校 三年

鈴木 琴

日傘持つ母と二人で夏祭り荒れてる指に想いを馳せる

大阪府立堺東高等学校 二年

平和 陸斗

武器を持つそれで平和か安心か尊き命を奪ってまでも

宮城県立宮城第一高等学校 一年

堀部 愛華

「よく来たね」言われたようで振り返るゆらゆらゆれる盆提灯

静岡県立静岡高等学校 三年

牧野 由都菜

哲学は覚えただけじゃ人生の救済になんてなってくれない

青森県立五所川原高等学校 二年

今 駿翔

アルプスの仲間のために気持ち込め一発で応えるフルスイングで

奈良県立畝傍高等学校 三年

下田 祐香

人前で本音を吐かぬフラミンゴもう片方の君の脚はどこ

静岡県立掛川東高等学校 三年

平野 大夢

引退し最後の掃除終えたあと静かな部室せみのぬげがら

静岡県・沼津工業高等専門学校 一年

興津 諒汰

渡嘉敷の真白な砂浜青々と珊瑚の海は宝石の城

徳島県立阿波高等学校 二年

渡辺 あみ

ペダル踏むコンビニもない田舎道星降る夜を独り占めして

短歌の部選評

歌人

田中 章義

ここ数年で最も多い七千数百もの作品が寄せられた短歌部門。他の誰とも違う歌、作者だからこそ思いや体温が感じられる歌を選出しました。幾度も読み返し、何日もかけて一首一首と向き合いました。入選歌以外にも注目した作品が多かったため、紙幅の許す限り、ごく一部ですが、注目を紹介します。

「段々と君との歩幅合っていく二人の背中を押す大夕焼」(佐賀県立鳥栖高校小島涼我)、「灼熱の太陽の下で体育祭日焼け気にせずゴリラになった」(埼玉県立浦和第一女子高校根本瑞希)、「線香の香りが父を呼んでいる私もこんなに大きくなったよ」(沖縄昭和薬科大学付属高校山本和実)、「柄になく花笠音頭猛練習体育祭で君と踊るなら」(兵庫六甲アイランド高校山本夏輝)、「弱いから汗水たらしボール追う必死につなげる僕らのバレー」(大阪府立堺東高校松尾龍浩)、「君と行く花火大会よりも好き君とながめる線香花火」(静岡県立掛川東高校大林夕菜)、「愛情の花言葉もつアサガオを大事に育てた夏忘れない」(浦和第一女子高校川島千佳)、「颯爽と翔く鳥を見ていると飛ぶ方向に夕日が

見える」(千葉県立安房高校平川陽輝)、「あの日から八年経った今の自分変化したのは街か心か」(宮城常盤木学園岩佐真帆)、「金魚鉢二人の顔が歪んでる灯りに照らされ嬉し恥ずかし」(埼玉県立川越西高校沼田茉理愛)、「自分より誰かのために一人よりみんなのためににかをしたい」(安房高校石井周治)、「動かなきゃ見てる景色は変わらない踏み出す一歩が世界を変える」(東京関東第一高校下村知遥)、「吹奏楽コンクールに向け日々鍛錬一音入魂一期一音」(埼玉県立深谷商業高校大島朋実)、「サイダーに浮かぶ氷が肩寄せて溶けあうように夏がはじまる」(東京昭和女子大付属高校昆あかり)、「炎天下暑いと騒ぐ人々と無言で耐える道端の花」(安房高校月原拓海)、「盆の夜風に髪の毛までられてああ父さんが帰ってきたかな」(浦和第一女子高校犬山千菜歩)、「人生は自分次第で変えられる導く鍵は我が身にあり」(宮城第一高校大宮優莉菜)、「いつだって見上げて見れば大空が一人ぼっちのひとはいない」(川越西高校太田百歌)、「ブランコを漕げば夜空が傾いてつめたい耳を撫でる静寂」(愛媛愛光高校豊富瑞歩)、「階段を二段とぼしでかけ上がるくよくよせずに前を向こうか」(徳島文理高校佐藤航士郎)、「またおいで恩師に言われ涙したあの日の桜今も忘れず」(安房高校西川綾佳)、「頑張っ

て明日の私そうじゃない今の私がやらなきゃいけない」(浦和第一女子高校金子莉奈)、「長弟よ携帯いじる長弟よこの美しき夜桜を見よ」(福井県立丸岡高校小林陸人)、「立佞武多姦しくなりて血よ滾れ魂燃ゆる短夜なり」(青森県立五所川原高校加納唯楓)、「合唱部誰かが鼻歌歌うなら他の誰かの声が重なる」(山口野田学園高校内藤沙那)、「終戦とともに生まれし祖母の手に重なる月日思いをはせる」(浦和第一女子高校中村優梨奈)。

全国から素晴らしい作品をありがとうございます。

●田中 章義 (たなか あきよし)

昭和四十五年静岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。大学一年生のとき第36回角川短歌賞を受賞。以後、「地球版・奥の細道」づくりをめざし世界を旅しながら、ルポルタージュ、紀行文、絵本など多数執筆。世界で詠んだ短歌が英訳され、平成13年国連WAFUNIF親善大使に就任。JICA「21世紀のボランティア事業を考える会」検討委員、国連環境計画・地球環境平和財団「地球の森プロジェクト」推進委員長、ワールドユースピースサミット平和大使などを歴任。短歌集の他、絵本や人物ルポルタージュなどの著述もあり、松井秀喜選手や北島康介選手の社会貢献活動を紹介した単行本も執筆。BEGINなどミュージシャンの歌詞も手掛けている。